

親鸞聖人七五〇回忌大恩忌法要記念出版

「クイズ浄土真宗」より出題

お布施の袋について、表書きは何と書けば良いのか聞かれることが本当に多いです。私としてはたとえ表書きが間違っていてても、有難くいただく気持ちに変わりはなく、全く気にしていません。しかし、「何でもいいですよ。」では不親切かもしれませんで、クイズ本より紹介させていただきます。

お参りの僧侶に渡す
金封の表書きはどう書く？

- 3択問題です
- イ、御布施
- ロ、お経料
- ハ、回向料

葬儀であれ、毎月の命日のお勤めであれ、またお墓の納骨法要でも、僧侶が勤行するときに渡す金封は、「御布施」でよいでしょう。布施というのは元来、他者のために施すことです。僧侶に対しては、主に食物など、生きる上で必要な物を施してきました。貨幣経済の社会になって、だんだんと金

銭で代用することが多くなりましたが、注意しておきたいのは、単にものからのやりとりではなくて、仏教を敬う心が前提になっているということです。

特に浄土真宗では、布施は自らの善業と解釈するのではなく、阿弥陀仏への報謝の気持ちから行うものとしま。ですから、僧侶への「報酬」という意味ではありません。阿弥陀仏の救いはたらきに感謝し、仏法が栄えますように、との思いが込められているのです。御布施を受け取った僧侶がよく「お預かりさせていただきませす。」と言うのはそのためです。

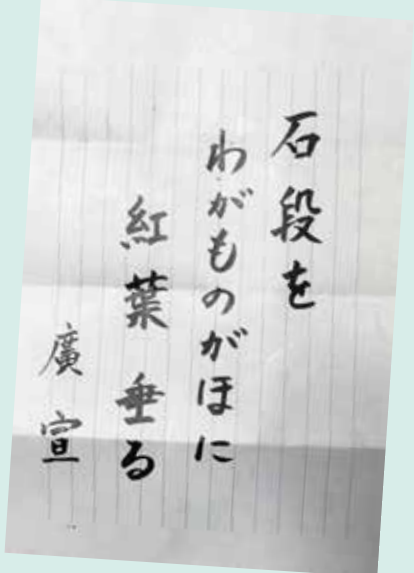
お経料とか、回向料は、僧侶が行った善行に対する報酬の意味合いが強い表現ですので、浄土真宗では使わないと思っただ方がよいでしょう。

(本文より)



本願寺出版 1365円

前任の 今号の一句



最近は趣味の俳句を楽しんでる先代住職です。吟行(げんこう)と言って、俳句の題材を求めて仲間と旅行するのも楽しんでます。たくさん俳句を作っているのが、今号から掲載することになりました。

さて今号の一句は、紅葉を観に行った時の句です。石段の上におおいかぶさるように、枝を伸ばしている紅葉(もみぢ)。その紅葉が美しいので、通る人がみんな枝を回り込むようにして通っている様子を見て浮かんだ句だそうなんです。「わがものがほ」という七文字をひねりだすのに、一週間悩んだそうですよ。